



家具の お取り扱いガイド

家具インテリアリサイクル&リニュー協議会

本ガイドは、家具を長くご使用いただくための一般的な情報をご紹介します。
家具は素材や仕上げの違いにより、適したお手入れ方法が異なる場合がございます。
具体的なお手入れ方法やご不明な点につきましては、製造メーカーまたはご購入先へご
相談いただくことをお勧めいたします。
なお、本ガイドの内容を参考にされたことにより生じた不具合等につきましては、当協
会では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

革のお手入れ

01

直射日光の当たる場所や冷暖房の吹き出し口の直撃はお避けください。革の過乾燥は、ひび割れ等に繋がります。また、湿度の高い時期（入梅、夏季）は、カビが発生しやすいので、換気に心掛けることが必要です。



02

通常は、柔らかく乾いた布で乾拭きをします。乾燥期（冬場）は、ぬるま湯（お風呂の温度程度）に浸し柔らかいタオル等を硬く絞りで強く擦るのではなく叩くように拭き取ります。特に汚れの酷い場合は薄めた中性洗剤で拭取り、絶対に石鹼水を残さないように綺麗なぬるま湯で再度拭き取ることが肝心です。



03

油性の汚れは基本的には取れない物です。特に気を付けたいマジック、ボールペン等は元々取れないように作られており、付けない事が肝心、他に化粧品のマニキュアも大敵です。



04

素上げや染料仕上（アニリン仕上げ）等は、コーヒー、ジュース等の色素成分のある汚れが付くと、シミになってしまうので、特にこぼさない配慮が必要になってきます。セミアニリン仕上げも使いこんで表面の塗膜が摩耗してくると、同様にシミが付きやすくなります。



05

一度染み込んだシミは、抜く事は出来ず、上からの顔料塗布或は張替え対応しか方法がありません。従って予め汚れを取れ易くすることは、後々の手入れを楽にさせることに繋がります。市販のなかで、事前に確認が取れているメンテナンスキットの使用をお勧めします。一部特殊革に付いては、塗布後の艶、色の鮮明度等が変わることを確認のうえ使用してください。市販の汚れ落としや保革油は、全てが確認されておりませんので、見えにくい部分でお試しのうえ使用する事をお勧めします。詳細はそれぞれの説明書の記載に従ってください。



06

汗は革の大敵です。乾拭きでこまめに拭いていただくことをおすすめします。汗に含まれる成分が、革と反応し、表面が固くなったり、ヒビ割れたり、破れることがあります。お昼寝の際はタオルをひくなどできるだけ汗が残らないようご注意ください。



07

ペットを飼われている方は、犬・猫も含めおしっこなどをされますと、臭い、汚れとも落とすことはできません。アンモニアが原因で革が破れたりボロボロになります。また爪などの引っ掻き傷もつきますので、十分ご注意ください。



08

シンナー、ガソリン、除光液は、塗膜を犯して塗料が取れますので絶対に避けてください。また、塩素シリコン系の（家庭のお風呂やトイレ）洗剤は、塗膜と化学変化を起こす可能性が高く、表面が変色しますので、これも使用を避けてください。冬場にムートン等の毛皮を掛けて使用されることがありますが、裏に滑り留めの処理がされている場合は、表面の塗膜を犯すことがあります。また堅い布地、籐の座布団、消しゴム等は、塗膜を傷つけ銀面を傷めます。牛乳、バターは、成分が毛穴や縫目に残りカビの原因になりますので、お手入れでの使用は避けてください。シリコン、防水スプレーは、撥水効果が有り、汚れの防止は一時的に出来るかもしれませんが、塗膜の変色を起こすことがありますのでご使用を避けてください。

